

Green Brave

10th Anniversary

Powered by **HANKOOK**
driving emotion

Super Taikyu 

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022

Powered by Hankook 第4戦

スーパー耐久レース in オートポリス

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

2022年7月30日(土) ~ 7月31日(日)

オートポリス (大分県日田市)

■ 最大のライバルとの一騎打ちを制し、今季3勝目を達成！ ■

予選日の天候は雨。九州地方の近くを台風が通過しているため、雨が断続的に降り続けています。予選は13時50分から行われ、Aドライバー服部選手が出場。服部選手はレインタイヤを装着してコースに入ったものの、3周目にピットへ戻り、ドライタイヤを装着。タイヤを温めながら連続アタックを行い、最後のアタックで#39RC350を逆転する2分04秒053のトップタイムをマークします。Bドライバーの予選には吉田選手が出場。コース上では再び雨が降り出しており、レインタイヤを装着しています。吉田選手は4周目に2分10秒814をマーク。#311フェアレディZに次ぐ2位となりますが、両ドライバーの合算タイムにより、2戦ぶりの予選1位(ポールポジション)を獲得。

決勝日の天候は曇。15時頃に雨予報が出ており、店舗メカニックが慌ただしくタイヤの準備を行っています。チームはスター

ートドライバーに川合選手を起用。吉田、服部、川合とつなぐ3ストップ作戦を実行します。決勝は11時から行われ、川合選手がトップをキープして1コーナーへ。序盤こそ10秒近いリードを築きますが、10周を過ぎたあたりから#311フェアレディZが接近。フルコースイエロー(FCY)があけた28周目から急速に距離が縮まり、37周目に2台の順位が入れ替わります。スタートから1時間半が経過した40周目、#311フェアレディZがピットイン。これにより川合選手はトップに復帰しますが、その2周後にピットへ。吉田選手に交代し、給油とタイヤ交換を行いピットアウトします。#311フェアレディZはピット作業でのトラブルで遅れたため、吉田選手はトップのままコースに復帰。2位は#39RC350に入れ替わっており、その差は15秒です。吉田選手のペースは良好で、タイヤをいたわりながらも#39RC350との差を徐々に拡大。スタートから2時間半経過した64周時点で、吉田選手のリードは50秒まで広がります。

吉田選手は80周目にピットイン。服部選手に交代し、給油とタイヤ交換を行い、コースに復帰します。服部選手の順位は1位で、2位は23秒差で#311フェアレディZ、3位は51秒差で#39RC350。3台ともに2回のピットインを終えており、最後のピットインが勝負の分かれ目になりそうです。服部選手は力強い走りを見せ、#311フェアレディZを上回るペースで周回。90周を過ぎたあたりから雨が降り出しますが、タイヤ交換が必要な雨量ではありません。103周目、複数のクルマがコースサイドにストップ。チームはピットインを即断し、服部選手をピットに戻します。その直後にFCYが導入され、狙い通りのタイミングに。ピットは大混雑となり、斜めに停めた状態でのピット作業となりますが、店舗メカニックは落ち着いて給油とタイヤ交換を行い、川合選手をコースに送り出します。2位走行中の#39RC350も3回目のピット作業を終了。トップ川合選手と2位の#39RC350の間には約26秒のギャップがあり、このまま逃げ切れると思われましたが、残り1時間頃から雨。雨は徐々に強くなり、多くのチームがレインタイヤに交換する中、川合選手はドライタイヤでの走行を続けます。#39RC350も同条件で走行しており、先にピットに入った方が負けという状況。意地の張り合いが続く中、残り10分でFCY導入。このままフィニッシュと思われましたが、残り2分でFCYが解除に。川合選手はまっすぐ走るのも困難なクルマを必死にコントロールしながらトップチェッカー。今季3勝目を達成し、ピットは歓喜に包まれました。

決勝結果 (ST-3クラス)

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

(服部尚貴 / 吉田広樹 / 川合孝汰)

決勝：1位 (132周、5時間03分01秒344)

予選：1位 (合算タイム4分14秒867)



DRIVERS VOICE

【服部尚貴選手】

クラウンRSのホイールはセンターロックではないので、タイヤを交換したら、すごく時間がかかってしまいます。39号車とのギャップはもともとあったのですが、最後はドライバー同士の意地の張り合いでしたね。この雨の中、ドライタイヤで走り続けるのは普通ありえないことです。残り30分ぐらいのところまで雨が強く降ってきましたが、あそこでピットに入っていたら負けていましたし、川合選手が頑張ってくれたのが本当に良かったと思います。

【吉田広樹選手】

ぼくの時も雨はちょこちょこ降ってはいたのですが、それほどの雨量ではなく、スリックで走っていました。日差しが強くなり、路面温度も上がってきたので、プッシュをし過ぎるとタイヤを壊す可能性があり、タイヤのマネジメントに気をつけていました。オートポリスはタイヤにきついサーキットなのですが、うまくマネジメントでき、服部さんにつなぐことができました。服部選手と川合選手がしっかり走ってくれたことが勝因のひとつだと思いますので、2人に感謝しています。

【川合孝次選手】

久々にほめてもらえるレースができ、何よりですね。チームからタイヤ交換の許しが出なくて、最後の30分間は本当に長く、きつかったです。FCYが出てすごく安心したのですが、最後の1周の時、タイヤが冷えてしまっていて、100Rで飛び出してしまいましたが、なんとかコースに戻ることができ、不幸中の幸いでした。優勝できてひと安心です。こういう天候、こういうレースは普段、なかなか味わえません。自分の経験やスキルにもつながっていると思いますので、すごく良かったです。

MECHANIC VOICE

【幸手支店・伊藤泰裕】

86/BRZ Raceの十勝に参加したことがあります。十勝は寒かったです。オートポリスはかなり暑く大変です。自分の担当はタイヤマネジメントです。タイヤの空気圧をコンマ以下まで細かく調整することはなかなかないので、いい経験になっていますが、少しの違いで走りが変わってきますので責任重大です。測定した空気圧はチーフメカニックを通してドライバーに伝えていきます。タイヤマネジメントで得た経験はもちろん、レースの世界なのでスピード、あとスタッフ同士が協力して作業していくところも支店で役に立つと思います。

ST-3 クラス 決勝結果

















順位	車名(車両)	周回数
1位	埼玉トヨペット GB クラウンRS(トヨタ クラウン)	132周
2位	エアバスター WINMAX RC350 55 ガレーズTWS(レクサス RC350)	132周
3位	Team Fukushima Z34(日産 フェアレディZ)	124周
	リタイヤ: raffinee 日産メカニックチャレンジZ(日産 フェアレディZ)	28周
	リタイヤ: 岡部自動車 Z34(日産 フェアレディZ)	18周

出走5台

ST-3 クラス ポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	52	埼玉トヨペット Green Brave	119.0
2位	39	TRACY SPORTS with DELTA	102.0
3位	311	FKS team fukushima	76.0
4位	63	TRACY SPORTS	45.0
5位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	41.0
6位	25	TEAM ZEROONE	21.0

PARTNERS

 赤城車体工業株式会社	 EMG ルブリカント合同会社	 株式会社エヌ・ティ・コーポレーション	 株式会社 FM NACK5
 株式会社岡崎巧芸	 株式会社カーグラス・JP	 株式会社カロッツェリアジャパン	 埼玉群スリーボンド株式会社
 株式会社三和広告社	 JU 埼玉オートオークション株式会社	 株式会社西武ライオンズ	 株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY
 株式会社デンソーソリューション	 株式会社ドーム	 トヨタホーム東京株式会社	 富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社
 株式会社プロモーション	 株式会社プロモーション	 丸和工業株式会社	 Mechanix Wear LLC